

平成28年度京都市景観市民会議（速報版）

テーマ：歴史と文化を未来につなぐ京都の景観づくり
～残せるか？お寺・神社のある風景～

日時：平成28年8月28日（日）午後1時から午後4時30分まで

場所：ひと・まち交流館京都 地下1階

京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2

参加者：市民公募委員16人，有識者9人，傍聴者50人，報道関係者2人

内容：以下のとおり

【話題提供】

- ① 日経BP社 副編集長，京都 嵯峨 正覺寺 副住職 鵜飼秀徳氏
- ② 京の社家を学ぶ会 代表 伊藤尚治氏
- ③ 都市居住推進研究会 代表代行，株式会社八清 代表取締役 西村孝平氏
- ④ 株式会社リーフ・パブリケーションズ 代表取締役 中西真也氏

【ワークショップ】

歴史的景観を残す上での問題点，歴史的景観を残すためにできること

主な意見：

【歴史的景観を残す上での問題点】

- ・ 歴史的景観やまちづくり等に関する知識・啓発の機会の不足
- ・ 寺社等と市民との関係性の希薄化
- ・ 寺社の維持や周辺の景観保全に要するコストの負担，その考え方
- ・ 観光地における寺社等と周辺住民のメリット，影響に関する合意がないこと

【歴史的景観を残すためにできること】

- ・ 景観市民会議のような議論の場や合意形成の場等，地域の景観を考える機会をつくっていくこと
- ・ 寺社が地域の文化やコミュニティの拠点であったということを共有すること
- ・ 氏子や檀家という関係を超えたファンクラブ等の仕組みづくり
- ・ 寺社と地域相互が情報提供を行い，学びの場を共有すること
- ・ 寺社側が寺子屋のような公共的な役割を担い，地域との付き合いを深めていくこと